

尊勝曼荼羅

絹本着色 一幅
寶曆四年修理銘

蘇悉地印契圖

紙本着畫 一卷
奥二「大唐咸通五年甲申孟夏月中旬有八
上都東市」更二請納 延喜元年八月五日 矢永郡趙琮錄記

護摩爐圖

紙本着畫 一卷
「永久元年十二月十四日於圓樂寺寫之 宗範」

請雨經曼荼羅圖

紙本着畫 一枚
永久五年書寫ノ記アリ

傳法正宗定祖圖

紙本着畫 一卷
仁平四年七月書寫奥書、寶曆五年修理銘

寶樓閣經法

紙本着畫 一卷
正安元年覺禪ノ寫本ヨリ書寫、元享二年朱點ノ記アリ

寶菩提院

弘法大師御影

絹本着色 一幅
傳詮摩法眼筆、天文九年修理裏銘

一字金輪曼荼羅

絹本金銀泥畫 一幅

大通寺

弘法大師像

絹本着色 一幅
後宇多天皇御宸贊

○善女龍王像

絹本着色 一幅

地藏菩薩像

絹本着色 一幅
應仁三年裏書

維摩像

紙本着色 一幅

弘基和尚像

絹本着色 一幅
慈性法親王御贊

金戒光明寺炎上

京都市左京區岡崎黒谷町淨土宗四箇本山の一金戒光明寺は四月十七日午後十一時過本堂より火を發し、本堂、大小方丈、庫裡等主要なる建物の大部を焼亡して翌十八日午前三時頃鎮火した。本堂は桁行十三間梁間十二間、大小方丈以下と共に文化頃の建築である。數年前同寺の主要建築物に防火設備を施したと聞くが、火の廻りの早かりし爲に殆んどその用をなさなかつたといふ。寺寶の

大部は取出すに暇なく、唯國寶山越阿彌陀像及び地獄極樂圖は恩賜京都博物館に出陳中であり、又水鏡の御影と稱せらるゝ法然上人畫像は當時奈良帝室博物館に開催中の日本肖像畫展覽會に出陳中なりし爲に全きを得た。(渡邊)

名作屏風畫特別展覽會

東京帝室博物館に於ては今春三月以降特別展覽會として建武中興資料展覽會、弘法大師資料展覽會(本誌第二十)を相續いて開催し、また四月十八日より廿九日に至る期間、諸家祕藏の屏風繪八點の特別展覽會を開いた。名家の祕庫に深く藏せられて、之を見る機會の尠い名作を一般に公開する企など寔に有意義にて吾等感謝に堪えぬ次第である。特に今回は點數にして僅に八點に過ぎなかつたが、その陳列配置に意を用ひ、觀者の歩を進むるまゝに、足利時代以降の漢畫系統と大和繪系統との大凡の變遷が看取出来るやうに、時代順に整頓されてあつた。その點近頃行はれる徒に種類のみ多くて、蕪然たる陳列による雜多な展覽會とは自ら選を異にせるものであつた。

列品中で、大橋家所藏の傳雪舟筆花鳥圖屏風(本誌第三)、男爵岩崎家所藏の宗達筆源氏物語關屋瀨標圖屏風(本誌第十)、公爵毛利家所藏の傳光茂筆濱松圖屏風等の名作の稱に適はしい作品や男爵團家所藏の大雅筆樓閣山水圖屏風の如き從來未紹介の作品に接し得られたことはこの上もない欣びとするところであつた。たと全般を通じて、直に所傳の筆者に擬するには未だ疑問の餘地の存すると思はれるものも少數見受けられたが、要するに名品及び未公開の作品を紹介して斯界に貢獻せんとする當局の不斷の盡力には滿腔の敬意を表するものである。因に陳列品目は左の如くである。(菅沼)

花鳥圖屏風	傳雪舟筆	紙本淡彩一雙	大橋新太郎氏藏
濱松圖屏風	傳光茂筆	紙本着色一雙	公爵毛利元昭氏藏
日月櫻楓圖屏風	金地著色一雙	侯爵前田利爲氏藏	
花鳥圖屏風	傳山樂筆	金地著色一雙	侯爵德川義親氏藏